

臨床研究に関する情報公開

福井大学医学部附属病院消化器内科では、倫理審査委員会の承認を得て、下記の臨床研究を実施します。関係各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成 29 年 11 月 7 日 福井大学医学部附属病院消化器内科

【研究課題名】 内視鏡的粘膜下層剥離術後潰瘍の治癒に影響を及ぼす諸因子の検討

【研究期間】 平成 29 年 11 月 7 日～平成 30 年 12 月 31 日

【研究の意義・目的】

近年、早期胃癌などの胃腫瘍に対して、内視鏡的粘膜下層剥離術 (endoscopic submucosal dissection; ESD) が開発され、2cm を超える病変や潰瘍を有する病変に対しても一括切除が可能となった。ESD の登場により、内視鏡治療のポテンシャルは飛躍的に広がり、より大きな病変へのアプローチがなされている。しかし、それに伴い ESD 後の潰瘍も大きくなり、その潰瘍治癒に要する期間も長期になる可能性も想定される。ESD 後潰瘍の適切な治療法の確立のため、その潰瘍治癒に影響を及ぼす諸因子を検討することは重要である。

【研究の方法】

平成 23 年 4 月 1 日～29 年 12 月 31 日に当院にて早期胃癌などで ESD を施行された患者さんを対象に、年齢、性、抗凝固薬・抗血小板薬・NSAIDs などの薬剤の併用の有無、酸分泌抑制剤・防御因子製剤の種類、肝障害、腎障害などの全身疾患の有無、胃粘膜萎縮の程度、*H. pylori* の有無、切除病変の大きさ、ESD 後潰瘍の大きさなどを診療録などで調査し、ESD 後潰瘍治癒に影響を及ぼす因子などについて統計学的に解析する。

【研究組織】

実施責任者	中本 安成	消化器内科	教授
研究分担者	須藤 弘之	消化器内科	客員准教授
研究分担者	松田 秀岳	消化器内科	助教
研究分担者	高橋 和人	消化器内科	大学院生

【本研究に関する問合せ先】

本研究は、診療情報を匿名化して取り扱い、個人情報厳重に保護して行います。なお、本研究に関するお問合せの患者さん、または診療情報の使用に関して同意いただけない患者さんはいつでも構いませんので、お手数ですが下記問合せ先までお知らせ下さい。

○ 問合せの窓口

〒910-1193 福井県吉田郡永平寺町松岡下合月 23-3
福井大学 医学部附属病院 消化器内科 松田秀岳
電話：0776-61-8351 Fax：0776-61-8110

○ 苦情の窓口

〒910-1193 福井県吉田郡永平寺町松岡下合月 23-3
福井大学 総務部 松岡キャンパス総務室 学術支援係 電話：0776-61-8614 Fax：0776-61-8153